

2014 年度 9 月入学式 式辞

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

本日、ここに 2014 年度 9 月入学式を挙げるにあたり、新入生の皆様ならびにご列席いただきましたご家族、ご関係の皆様に対し、早稲田大学を代表いたしまして、心よりのお祝いと歓迎のご挨拶を申し上げます。

本日、晴れて早稲田大学に入学されたのは、学部生 349 名、大学院生 543 名の合計 892 名で、このうち海外からの留学生は 704 名に上ります。

世界のあらゆる地域から多くの前途ある人材をお迎えできたことは、本学にとりまして、この上ない慶びであります。

本学は、いまから 132 年前、明治 15 年（1882 年）に、この早稲田の地に創設されました。

当時の日本政府は、一日も早く欧米に追いつこうと考え、官立の大学を設置し、官僚の早期養成のために、欧米の制度をそのまま学びとろうとしていました。

これに対し、本学の創立者である大隈重信や小野梓らは、これとは異なる理念をもって本学を創設いたしました。

すなわち、第 1 に、真の近代国家を作り上げるためには、単に欧米の制度を直輸入して、一握りの官僚が国を支配するのでは不十分で、市民の一人ひとりが、自立した精神と豊かな教養を身に付け、一国の利益よりも人類全体の利益のために力を尽くそうとする高潔な人格を備えることが重要であり、そのためには、自由で独創的な学問と個性を尊重した高等教育が必要であるということです。

第 2 に、日本や東洋の文明は遅れているから、できるだけ早く東洋文明から脱して欧米化するようにしなければならないという当時の風潮に対して、東洋文明と西洋文明のそれぞれの長所を認め合って、両者の調和を図らなければならない。そのためにも、学問の独立、学問の活用、そして、広く世界に活動する優れた市民の養成、の 3 つが必要だと考えたのです。

このようにして、「学問の独立」と「東西文明の調和」の理念の下に設立された本学には、全国各地から、またアジアを中心とする世界各地から、個性豊かで進取の精神にあふれた多様な若者が集まり、政治・経済・科学技術・ジャーナリズム・文学・スポーツなど極め

て幅広い分野で多彩な人材が育ち、世界に向けて巣立って参りました。

古くは、1895年に本学を卒業して、日本人としてはじめてイエール大学教授に就任し、日米開戦の回避のために最後まで努力をした朝河貫一、1896年に本学を卒業して、コロンビア大学に日本文化研究所を設立し、本学名誉博士ドナルド・キーンをはじめとする多くの日本研究者を育てた角田柳作などがいます。

また、中国共産党の創立者である李大釗、陳独秀や、辛亥革命の指導者たちが早稲田大学で学んでいます。

韓国との関係では、1914年に本学政治経済学部を卒業した金性洙が、帰国後に、東亜日報、韓国民主党、そして高麗大学校を創設し、副大統領にも就任いたしました。こうした経緯から、高麗大学校は、早稲田大学とは強い絆で結ばれており、日韓国交回復前の1961年のサッカー交流戦を端緒として、1973年に学術交流協定を締結して以来、40年以上にわたって、活発に教職員・学生そして校友の交流を展開しております。

そして、本日、金性洙氏のお孫さんでもある金炳喆高麗大学校第18代総長をご来賓としてお招きし、本学名誉博士号を贈呈させていただくことを、大変光栄に思っています。

これらの多くの優れた卒業生の皆さまのご支援も得ながら、早稲田大学は、世界に開かれた大学として発展を続けて参りました。この9月入学式もその象徴と言って過言ではありません。早稲田大学では1998年から4月入学と並行して9月入学を実施してきました。

グローバル人材の育成には、外国人学生の受け入れと日本人学生の外国への送り出しを通じて異文化交流を促進することが重要ですが、現在では、6学部11研究科で英語のみで学位を取れるプログラムが運用されていることなども相まって、約4700人の外国人学生が早稲田大学に在籍し、毎年3000人を超える学生を海外に送り出すなど、日本で最も国際化の進んだ大学となっています。

2012年11月には、新たな中長期計画“Waseda Vision 150”を策定し、アジアのリーディング・ユニヴァーシティとして世界に貢献する大学であり続けることを目指して、教育・研究・社会連携など幅広い分野でさらなる改革を力強く実施しているところです。

教育面では、グローバルリーダーの育成を目指して、教育の目標・内容・方法などを抜本的に改革しておりますが、何よりも重要なことは、学生が主体的に学ぶこと、そして、生涯を通じて学び続ける姿勢とそれに必要な基礎的素養を身につけることであると考えます。

初代学長・第3代総長の高田早苗も、1912年の入学式において、次のように述べています。

「講釈ばかり聴いたのでは学力は付かない、只講釈を聞いただけでは何にもならぬ、右の耳から這入って左の穴から逃げてしまふ・・・自分で以て勉強し自から修めたことはちゃんと頭の底へ止まるから学力は夫れに依って始めて付いて来る・・・自から修めると云ふこと、教師ばかり当てにせず只耳学問計りせずして眼を書物に曝す、目学問をする、目と耳と両方働かせる、字引を使って下読をする、教場ばかりでなく家に於いて能く研究をする・・・何でも時間を利用し自修的に勉強することが余ほど肝心である」

また、「模範的国民と云ふものは一身を自立すると云ふ丈けのことは無論出来なければならん・・・自分の身を立て更に進んで国のために盡す、而して更に進んで世界に向って貢献をする、身を重んじ国を愛し世界に尽すと云ふ人間、之れが真正の模範的国民世界的市民と称するのである」と。

本日、入学式を迎えられた新入生の皆さまには、自ら進んで、早稲田大学の長い伝統の中で蓄積された学問的・文化的資産と優れた教育・研究環境を最大限活用し、それぞれの目指すところに向かって着実に前進されることを、そして、本学の建学の理念に象徴される理想を実現するための長い道のりを共に歩んでいく親友やライバルを見つけ出してくださることを、切に希望いたします。

早稲田大学の教室で、サークル活動等を通じて、また学生寮での生活において、日本人学生と外国人学生が緊密に交流し、議論を重ねることで、さまざまな文化的背景を持ち、異なる価値観をもった人々が相互の理解を深めるとともに、自らの学識と人格を磨いていくことで、世界の平和と人類の幸福の実現に一步一步近づいていくものと確信しています。

新入生の皆さまのこれからの大学生活が実り多いものになることを心から願って、お祝いと歓迎の挨拶とさせていただきます。

皆さん、本日は誠にありがとうございます。